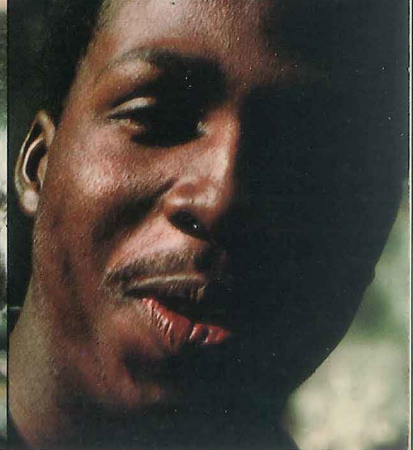
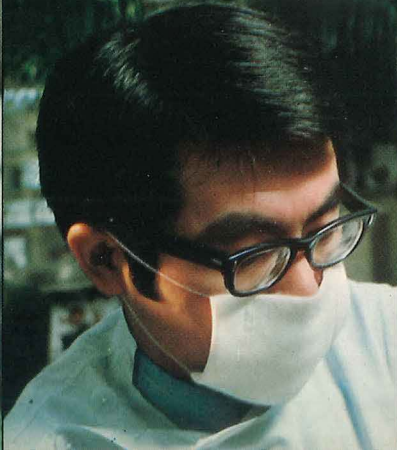
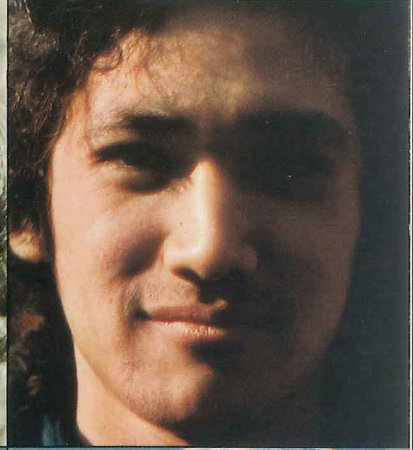
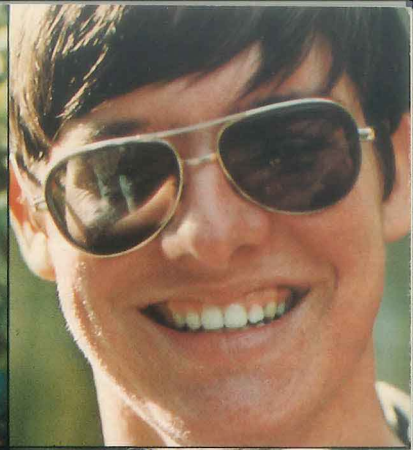


# ZOOM UP

特集 = 若者

1974 NO.7





## 鈴木 勝

日本大学総長

総長に就任して5年、私がつねづね考え、学生たちにしているのは、人間としての教養、全人的教育ということです。

大学生活は4年ないし6年。専門的な学問は、この間に身につけることができます。しかし、この学問は、人生のなかでは、ごく一部分にしかすぎません。GNPを誇り、科学技術が社会を引っばって行く風潮が永く続いたため、心の問題が忘れられていたのではないかと近頃、とくにそう感じます。

専門知識を過信し、独走してしまうと、人生も社会も、うるおいのないものになってしまうぞ。在学生には、いつも、こう忠告するのです。

大学教育の目的は真理の探究にあります。昔も今も、この理想には変化ありません。しかし、同年齢層のごく一部が大学へ進む時代と、高校卒業生の30~40%が大学へ進む時代とでは、おのずから相違があります。開かれた大学にあっては、真理の探究に凝り固まっていたのでは、不十分なのです。大学生活の間に、人間の本質を見直すことが、なによりも要求されるのではないのでしょうか。

日本大学には10万人の学生がいます。私が総長に就任していらい、学問はもちろんですが、それ以外に、全学生にクラブ活動をすすめているのは、凝り固まった学生生活を送ることのないように、と



いう考えによるものなのです。

日本大学では、エリートだけを養成しようとは考えておりません。社会に出て、受け入れられる人間性を作ろうと考えています。それには、学生の視野を広げ、広い世界観を持つことも必要です。海外研修、海外教授や国内の他大学教授との交流などを積極的に進めているのも、このためです。

◇ ◇  
学問のなかには、ライセンスをとまなう専門教育があります。歯学、医学などはそうです。これらの学問は、大学教育がそのまま将来の職業上、決定的な要素となるわけですから、充分のうえにも充分な知識の修得が必要であることはいまでもありません。が、これとても、ベースを広く、専門外の知識を身につけておくことを望みます。医師も法律や経済を知り、弁護士も科学に明るいことが、厚みのある人間を作るのです。

とくに、医師、歯科医にとって、治療の基礎は人間性であり、人間関係であると信じます。医師は患者に治療をほどこす（「施療」という言葉がありますが）のではなく、対等の人間どうしとしての対話が何よりも必要です。心のふれあいのない医師と患者は、お互いに不幸です。

医師は、何よりも先に「医の本質とは何か」を知るべきです。技術、学問と同時に、医の哲学を学ぶべきです。医道が忘れられがちな時代、私は強くそう感じます。（談）

鈴木勝総長は、明治36年福島県出身。昭和2年日大歯学科、同21年東京医科歯科医学科卒業。日大歯学部助教授から学部長を経て昭和43年日大総長に就任した。学術会議会員、医学博士。



診療室拝見

自分でやった名設計

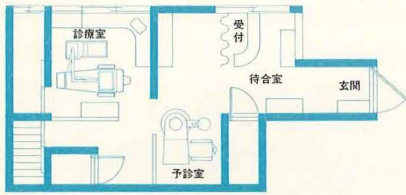
# 椿井歯科

大阪市天王寺区寺田町234

院長 院長：椿井琢光







大阪環状線の代表的ターミナル・天王寺駅のひとつ隣の寺田町駅。そこから歩いて数分の近さに椿井歯科のこじんまりとした二階建の建物がある。車の往来が激しい国道25号線から十数メートル横にそれているだけだが、騒音はぐんと少ない。「とり立ててお話しするようなことはないんですよ」一日焼けしてたくましい椿井先生、ちょっとテレながらこうおっしゃる。「なにしろ昨年(48年)2月に開業したばかりですから…」ざっくばらんな人柄のようだ。

椿井先生は岡山生まれの大阪育ち。先ごろ87歳でなくなったおじいさん、それにお父さん、おばさんが大阪市内で開業する歯科医一家だったから長男としてはごく自然に「三代目」の道を選んだのだそう。「でもぼくがああの時期に開業できたのは金融が緩和されていたからだと思っています。ラッキーだったんです」



45年大阪歯科大学を卒業したあと市内南区の歯科に勤めた。「3年間働いてみて一人前にやれる自信がついたので開業に踏み切ったわけなんです」。医院の設計は全部自分でやったという。建物は間口が5メートル40、奥行き11メートルという細長いスペース。先に勤務していた医院もやはり同じような形だったので間取りの参考にはなった様子だ。椿井医院は1階が診療部分、2階が住宅。1階の間取りは“ようかん”を三つに分けた感じと想像するだろうか。まず1切れは玄関部分、まん中の1切れは待合室と受付、残りが診療スペースというわけだ。待合室はグリーンとブルーの混じったジュウタンに、藍色のソファが二脚。茶色の壁とほどよく調和して明るい感じである。

診療室には初診時用の治療イスと、本格的な治療のためのズームデラックス7が1台ずつ。そのズームの無影灯が天井に埋め込まれているので、スペースが実際より広く見える。窓の高さに合わせたキャビネット。そのキャビネットの引き出しには調合ずみの材料などがきちんと格納されていた。「このごろはどこでもやっているようですが、うちのように医師は私1人、ほかにパートタイマーの助手だけというところでは手が足りないの、省力化と、なんでも扱えるようにみんなカプセル化してしまったのです。おかげでうまくいっています」。そのほか器械の重量に耐えられるように床のモザイク・パーケットを二重にするなどの心配はかなり行き届いているとみた。

椿井先生のお父さんは東成区にいるが、



もし一緒に仕事をしていると技術的、精神的にも衝突が多いと思うと、おだやかならざるお話になった。「ぼくがここで開業している父にはいい刺激になっているようです」といかにも自信に満ちた言葉も出て来た。20年も違うので技術的にもずれが出ているが、その新しい技術を吸収しようという考えがお父さんにも生まれてきたのだという。しかし、経験の豊かさでは比較にならない。義歯は断然父に面倒をかけていますと椿井先生は笑う。

開業1年、勤務医と違って精神的な負担が大きいことに気づいているし、何もかも自分1人なので研究のための集まりに参加する機会が少ないのが残念とのこと。

趣味はとたずねると言下に「スキーです」という返事。高校時代から白馬の八方根スキー場で皿洗いのアルバイトを続けているうちにめきめき上達した。大学にスキー部が誕生したのは椿井先生の肝入りのお陰とか。47年5月、京都生まれの一枝さんと結婚。結婚式はアラスカのスキー場で挙げたというから熱の入れようも尋常一様でない。

子供のいない一枝夫人はいま受付から助手、そして主婦業と毎日追われている。「スキーに連れていくからとごまかされているんですよ」一実に楽しそうな若いカップル。みごとなチームワークである。

これから開業する先生たちのためには—とお聞きすると「開業医はオールマイティでなければならないんです。抜歯は苦手だなどといっていられない。だから自信がつくまでは開業はしない方がいい



ですね」一次に重要なのは人間関係の面。開業に先立つ勤務医院で、悪い習慣がつかないように、勤務先を慎重に選んでほしいということである。

一枝夫人は大学で児童文化学を専攻しただけあって子供ずき、むろん椿井先生自身も。「若いから怖いもの知らずなのかもしれませんね」— 165センチ、75キロ、28歳のファイトマン先生は、親しみを覚えさせる笑顔で別れざわこうおっしゃった。





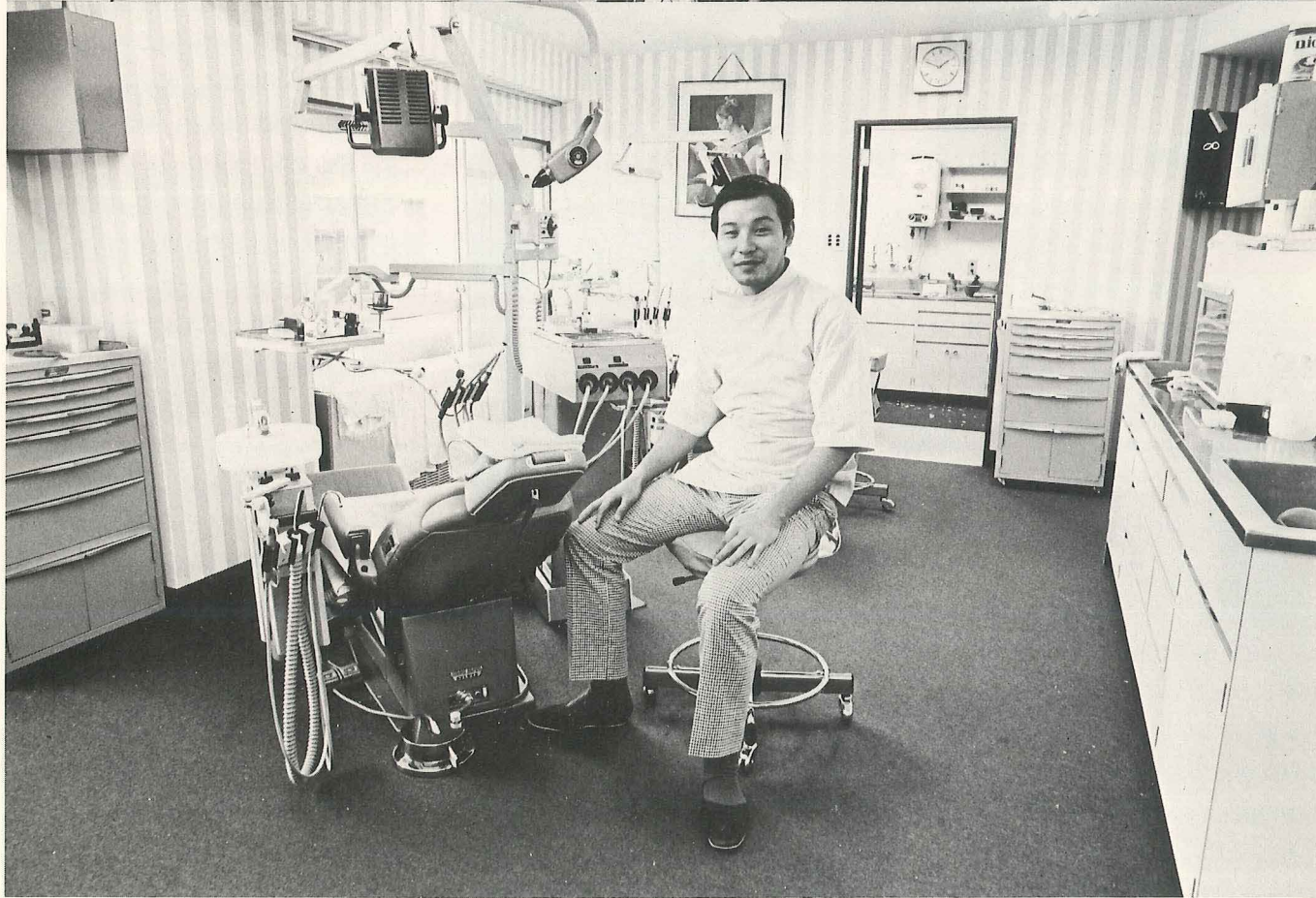
診療室拝見

診療時間をたっぷりと

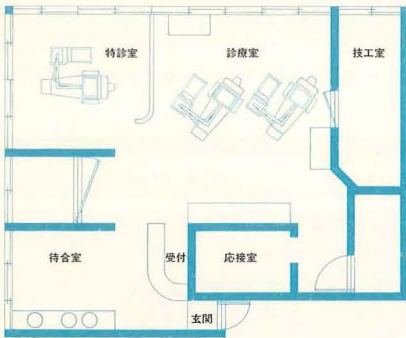
# 郡山歯科

埼玉県蕨市塚越2-14-7  
(北野マンション内)

院長：郡山茂男

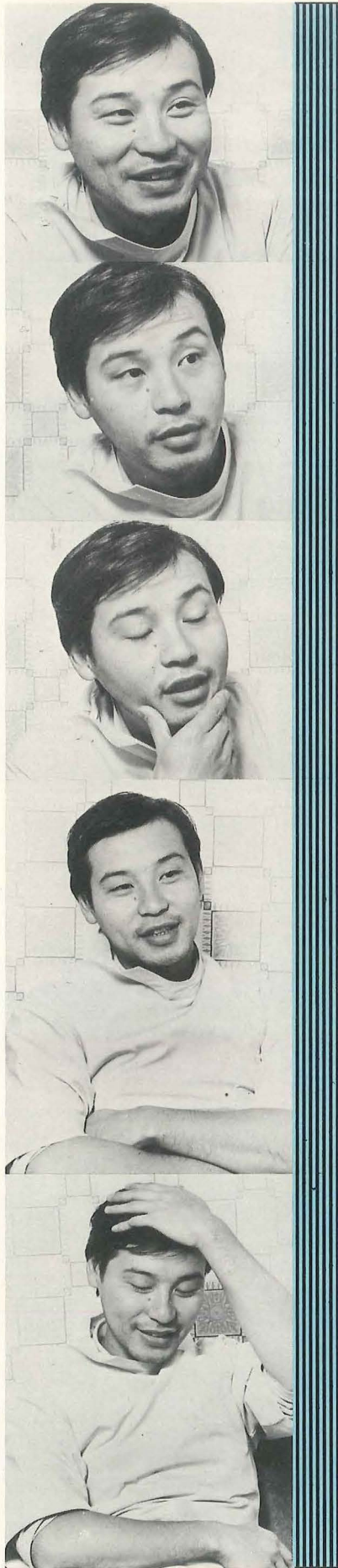






蕨市は鋳物のまちとして知られる川口市のお隣り。東京から京浜東北線で40分そこそこだから完全な東京への通勤圏だ。まだ自然があるこのまちから通うサラリーマンで朝夕の国鉄蕨駅は大変なラッシュ。この駅の東口から歩いて約5分。商店街の大きな通りに面して6階建てのしゃれたビル・北野マンションの2階が郡山歯科。48年3月開業の新しい診療所である。

「オヤジが隣町の戸田市で開業しているんです。ボクは長男だし、食いっぱぐれがないというので歯医者になったしい…」——歯科医を選んだ動機をおたずねするとこんな返事である。ぶっきらぼうな調子だが、目の方はやさしい。日本歯科大学を卒業したあと3年間東京都内の歯科医三カ所に勤務した。たまたま地元のこのビルに事務所に貸すつもりスペースがあったので念願の開業。



紫色に赤のまじったじゅうたんを敷いた待合室。受付のわきのドアをあけると明るくて近代調の診療室が一目で見渡せた。壁は白とベージュの縦じま、キャビネットは白、それにズームデラックスのライトブルーがみごとに調和している。郡山先生一人のデザインなのだそう。診療所のスペースは約73平方メートル。診療室にはズームデラックス3台がおかれているが、間隔がたっぷりあって実際に治療がしやすそうである。「働いているわれわれも患者もぶつからないようにしたかったのでね」——苦労したのは、ビル内を改造する場合どこでもそうだが、配管のための床上げ。床を上げればそれだけ天井が低くなるが、ゆとりを大事にする郡山先生にはがまんがならない。床と同時に天井も上げてしまった。人物・花・建物など油絵が5枚壁にかけられている。「絵がすきなもので…」とやはり同じ調子で。「開業してみると外から見ていた時と随分違う。勤めていた時は治療だけで気づかなかったけど材料に思ったよりカネがかかるんです」——このところのすさまじい物価上昇、この言葉よくわかります。

ここの診療時間は午前10時から午後1時までと、午後2時半から7時まで。スタッフは郡山先生と助手1人、受付1人だから大変なオーバーワークと思われた。「うちはアポイントメント制ではないので、紹介された人がくると断れない。夕食もとらずやっても終わるのが9時か10時というのがザラですよ」——これも借金を背負っているからがんばれるのでし



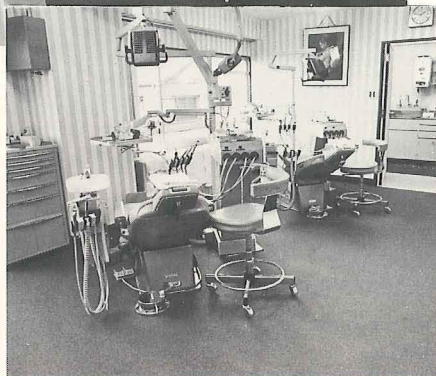
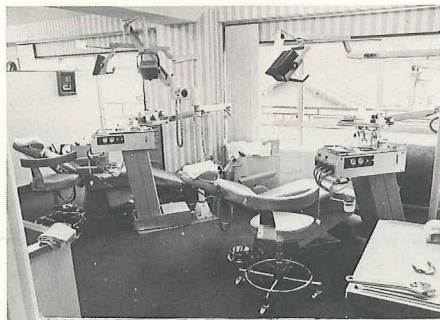
ようが、とつけ加えた。休みにはもっぱら寝ているというが、決して誇張ではないようだ。

郡山先生は46年1月結婚、2歳と1歳のむすこさんがいる。結婚後1年ぐらいは、診療がすんでから酒を飲みに出かけたりして無茶をしたため体をこわした。勤務先にはたびたび休んで迷惑をかけたが、これ以上は申しわけないと開業を決意したのだという。「開業後は仕事はきついが、休もうと思えばいつでも休めますから気は楽」。現在は酒は1日1合。1日50本すっていたタバコもやめている。

このビルの3階に郡山先生の住まいがあるが、光世夫人は育児に忙しくて診療の方は一切ノータッチ。その代わり「子供のことは女房が注意していると思いますよ。だからボクは何もいわない主義」と徹底している。

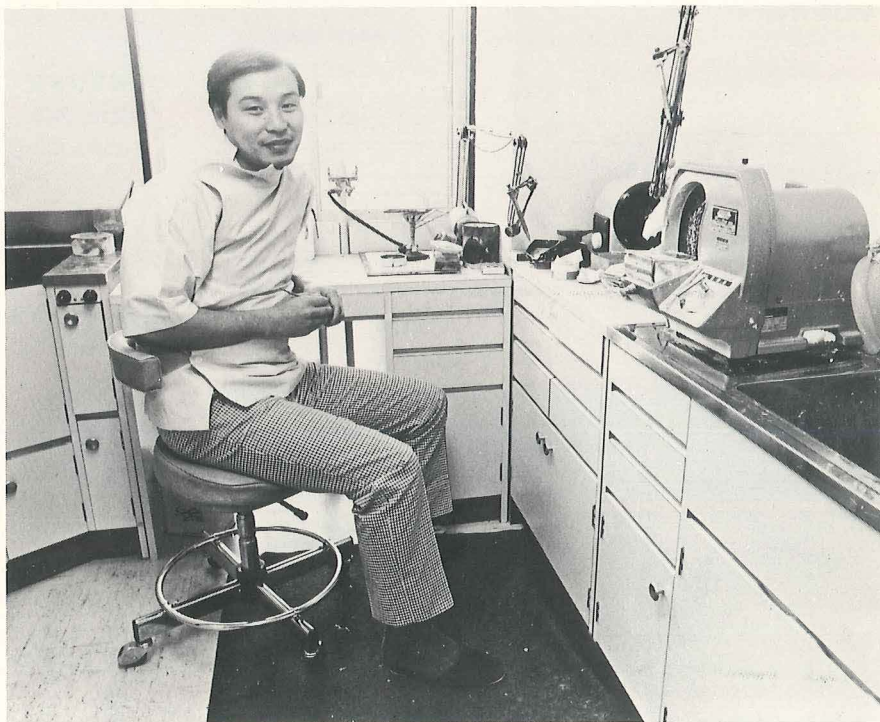
ここの診療方針は、出来るだけ患者の要望にこたえることとチェアタイムを長くするという。「待っているのはつらいことだけど、治療イスにすわれば自分もゆっくり見てもらえるということでもがまのできるのじゃないですか」—この患者は1時間も2時間もじっと待ってくれるのだそうだ。アポイントメント制は、きちんと時間を守ってくれればいいが、目下全く切り替える考えはないとのことだ。

「これから開業する人は、器械と材料は自分で使いやすいのを選ぶべきですね。それとより多くの患者に接しておくこと。自然に技術が向上すると思います。やり出した仕事はその日のうちに必ず片づけ



ることも大事だと思う。めんどうくさがってはいこの世界では一人前として通用しませんよ」

口数は決して多くはないが言葉にはムダのないというタイプ。28歳。大学時代はサッカーとゴルフをやっていたというスポーツマンらしい気質が診療の態度にみごとに反映しているようであった。





# 診療室を考える前にチェックすること

オサダは歯科の先生の治療体型について、いろいろと研究し、それに答えるべく治療機械器具も、それらの理論的根拠に基づいて考案してありますが、これらのことを全て述べると、数冊の本になるほどの量になりますので、始めに気になる数項目を以下に述べたいと思います。

現在発表されている動作経済の原則の基本重要点を取りあげて考えてみます。

## 作業姿勢の分類

- (1) 立位姿勢
- (2) 椅座位姿勢
- (3) 座位姿勢
- (4) 臥位姿勢

## 作業姿勢を決定する要点

- (1) 視覚を中心とした場合
- (2) 循環器を中心とした場合
- (3) 手の運動を中心とした場合
- (4) 身体の重心を中心とした場合
- (5) 上肢の運動を中心とした場合
- (6) 上半身の運動を中心とした場合
- (7) 下肢の運動を中心とした場合

## 好適作業の高さは

患部の高さの相異による術者の姿勢の変化並に疲労より観た好適作業面の高さは身長 150cm—170cmの者を標準にして立位姿勢の作業面95cm—110cm術者の乳頭点よりやや低く、心臓より低い部位で腕をつかうこと。

座位姿勢は作業面60cm—75cm術者の座位の膺の高さで腕を使うこと。即ち、患部の床よりの高さ、術者の乳頭点の高さ、患者とブラケットテーブルの距離、咬合平面の角度、術者と患部迄の距離等、実際の治療形態よりユニットとチェアとの関連性を取り入れた治療セットを選定すべきであります。

## 環境のチェックシート

### 各室別

1. 玄関、受付、待合室、治療室、技工室、相談室（その他）  
各室は広すぎないか、狭すぎないか
2. 照度、投光角度は適か（口腔内ルックス）
3. 色彩調節は適当か
4. 十分な採光があるか、明るすぎないか

5. 窓面積は床面積に対し充分か、高すぎないか
6. 手元照明は充分か、必要ないか
7. 室内温度（室調）の調整は出来ているか
8. 天候の影響変化に対する（光、色、温度）対策は出来ているか
9. 標準温度、光に対する管理はされているか
10. 大戸、放熱器（技工、消毒）の防策はあるか
11. 空気の流通性対策は出来ているか
12. 吸塵装置は充分に出来ているか
13. ガスの吸引装置は充分に出来ているか

- 光、色を考えているか
22. 化粧室、ウガイ場所、便所等適当な場所にあるか
23. 受付台の高さ、大きさ、窓の大きさは適当か
24. 患者教育用の資料、模型等用意されているか
25. 玄関の広さ、下駄箱、傘立等に注意がはられているか
26. 職業病に対する防止策は充分か

## 治療場所の改善シート

### 治療室

1. 適当な作業場所か
2. 特別の作業場所の必要はないか
3. 流れに対してよい場所か、医

9. 作業面の周りにフチの必要はないか
10. チェアとの間に区切の必要はないか
11. 立っても、腰かけてもよい作業面の高さに調節できるか
12. 立っても、腰かけても関連する機械器具は適正な作業範囲内にあるか
13. この作業は立、坐、どちらに適しているかきめてあるか
14. 患者用チェアは適当にしたものか、アシスタントの位置は正しいか
15. チェアは充分に回転出来るようなスペースがあるか
16. 術者の足の置場は適当か



14. 騒音防止は充分か
15. 防震防止は充分か
16. X線防止は充分か
17. 特殊防止服の必要はないか
18. 隣接作業台との仕切壁は必要ないか
19. カーテン、窓の色塗りは考えているか
20. 装飾品、飾棚の工夫は充分か
21. 持に待合室の本、イスの配列、

- 師、アシスタント、患者
4. 正しい姿勢で作業が出来るか
5. 空間は大きすぎないか、作業間隔は
6. 長い工程、交錯した治療の過程を考えているか
7. 患者、アシスタントに対する指示、指導が容易に出来るか
8. 作業面の高さは（ユニット、キャビネット、技工台、机）

17. 術者、患者の身体の支え、手足の支えは充分か
18. 器材、薬品の置場は標準化されているか
19. 手洗、消毒等の場所は適当な場所にあるか
20. 手洗は術者用専用か、その高さは、方法は
21. 患者用ウガイ場所は、待合室、治療室



### 室内の色彩

色彩に関しては、科によって異なりますが、あまり刺激の強い色では医師の疲労をはやめたり、患者を興奮させたりすることがあるわけですから、さけるべきでしょう。アットホームな感じの待合室から入ってきた患者に、安心感をいだかせる様な色彩であることがのぞましいのです。

そして、清潔感のある色であることが必要なのは、勿論のことです。白は適当な色とはいいたいがたいのです。特に手術室においては、白はさけるべきです。手術中、血を見ていた目を、白い壁面にうつすと、そこに赤と補色関係

にある残像がみえるからです。手術室の壁の色彩は、赤と補色関係にあるブルーグリーンを使うことが望ましいと考えます。

### 光というエレメント

色彩を問題にする時に、光をぬきにしては語れないものです。同じ空間であっても、光の量と色彩によって、空間に対する人間の認識は大きく変わってきます。光の量と色彩によって、空間の認識のされかたは、さらに大きく変わってくるのです。

室内設計においては、この光と色が非常に大きなエレメントとなっています。灰色の壁にかこまれたうす暗い空間が、ステンドグラ

スの窓をとおして入ってくる光によって、実に、色彩豊かな空間となっております。その色彩が太陽光線の強弱によって、また光線の移動によって、空間を変化させます。

### 時刻とともにかわる空間

色彩計画に関しては、今後の建築においては、固定した色彩ではなく、見る角度や時間によって変化する動的な計画がさらにすすめられることと思います。同じ色であっても、南向きの部屋で見ると、北向きの部屋で見るとでは、かわってくるものです。

診療室や待合室においても、トップライトやガラスの使い方によ

って、親しみある空間を作りだすことができるでしょう。

しかし、診療室においては、あまり強い光線は、かえって診療のさまたげになることにも留意しなくてはなりません、が最近の照明の発達は、自然光にたよることなく、人工光のほうが一定の光線をえられる点で、かえって診療に適したものとまでなっています。但し、人工光の場合には、光線の方向や照度器具などが診療に大きく作用してきます。照明の方法に関しても、直接照明、間接照明、半間接照明などを、その診療方式と空間に応じて選ぶ必要があると思います。



ズーム デラックス7



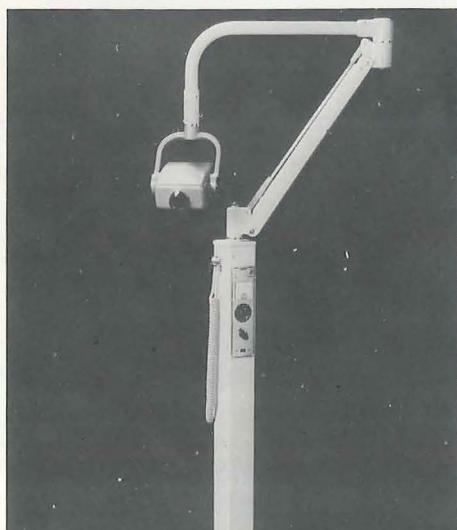
コンビ747



スマイリー



ユニオート



オーレックスP-II型



キャビネットカスタム





アシスタント紹介  
アポロ学園歯科衛生士  
学校の生徒さん  
信頼できる先生を

東京都中野区上高田 4-15-4

今回は衛生士めざして毎日ハードスケジュールと取り組む衛生士学校の娘さんたちをご紹介します。勤務するのなら理解のある先生の所ではなくは——彼女たち、なかなかはっきりしていながらも若者らしい。衛生士予備軍の発言に耳を傾けてみてはいかがでしょう。

まずアポロ学園歯科衛生士学校について。ここは東京にある衛生士養成機関の中ではただ一カ所の私立衛生士学校として38年4月設立された。他の機関は2年制だが、ここは1年制、つまり短期間に国家試験を受けるための資格を得るように勉強しなければならないのだから1日の授業もぐんときつくなる。

西武新宿線の新井薬師駅から徒歩で7、8分のアポロ学園を昼休み時間に訪れた。60人いる生徒さんのうち10人ほどに集まってもらう。高校を出てまっすぐ入学した娘さんもいれば、オフィスレディの経験者もいて年齢は18歳から26歳までと幅がある。

さっそくどんな歯科医院に勤めたいか

聞いてみた。「この学校では新しい治療台で実習を受けている。能率的なユニットなので古い治療台を使っている所では働きたくない」と現実的な希望がまっ先に飛び出す。「歯科衛生士の本来の仕事、つまりアメリカの歯科衛生士と同じような予防歯科の仕事や、歯科医の補助的存在でありたい」——いかにもしっかりした感じの娘さんの言葉にほかの出席者がいっせいにうなづく。「私たちが習った勉強を生かせるような職場」「衛生士としての勉強を常にさせてくれるようなところ」という発言が多い。

理解のある先生というのは、例えば、診療を受けている患者を相手にアンケート調査をさせてくれるような医師とか、研修の場に積極的に参加させてくれるような医師だということだった。

実習などを通じて開業医の実態を出席者の大部分が見聞していた。「診療時間は一応決まっていますが帰宅させてもらえる時間がはっきりしない医院が多いと聞いている」「衛生士とは名ばかりで、何か

ら何までお手伝いさんみたいに使っている医院もあるというが本当か」などと逆に聞き返す生徒もいた。

“期待する歯科医師像”としては「信頼できる治療をしている先生」、また勤務したいところは「医院の規模の大きさではなく、診療内容の新しいところ」というのが全体の意見。

1時間の昼休みをオーバーするほど熱心に語ってくれた衛生士学校の生徒さんたち。最後に「どのようにして私たちの理想とする医院を選んだらいいのでしょうか」という悩みが出て一同深刻な表情にもどってしまったのだった。





OSADA

# スマイリー



## ユニークな「オサダ」の自信作

技術のオサダ、先生がたのお心と、患者さんのお気持ちを何よりだいじにする〈オサダ〉。

〈オサダ〉の個性と良心が、作りあげたユニークな作品です。3台が4台になります。従来の機械は、1間(180cm)に1台が常識でした。それだけのスペースがないと、せつかくの先生がたのお力を、フルに発揮していただくことができなかつたのです。SMILY(スマイリー)は、3間半に4台おけます。それでいて、どの位置からも、どんな姿勢でも、

じゅうぶん腕をふるっていただけるのです。

そうじも簡単。奥様やアシスタントの方々も、大助かりでしょう。価格も手ごろ。

これから……という若い先生がたにも、きつと手を出していただける値段です。「1台ふやそうか……」とお考えの先生にもぴったり。

常に、先生がたのお気持ちを汲んで研究・開発をする〈オサダ〉にご期待ください。